



Disaster Recovery System ガイド for Cisco Unified Presence Release 6.0(1)

『*Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド*』は、障害復旧システムの概要および使用方法について説明し、バックアップや復元に関する各種作業を完了するための手順を示します。このマニュアルは、Cisco Unified Presence およびその他の Cisco IP テレフォニー アプリケーションのユーザを対象とし、リファレンスおよび手順のガイドとして利用します。

このマニュアルは、次の内容で構成されています。

- [障害復旧システム とは \(P.2\)](#)
- [バックアップおよび復元手順のクイック リファレンス表 \(P.3\)](#)
- [サポート対象の機能およびコンポーネント \(P.4\)](#)
- [障害復旧システムのアクセス方法 \(P.4\)](#)
- [マスター エージェントの役割と起動 \(P.5\)](#)
- [ローカル エージェント \(P.5\)](#)
- [バックアップ デバイスの追加 \(P.6\)](#)
- [バックアップ スケジュールの作成と編集 \(P.8\)](#)
- [スケジュールの有効化、無効化、および削除 \(P.10\)](#)
- [手動バックアップの開始 \(P.11\)](#)
- [バックアップ ステータスの確認 \(P.12\)](#)
- [バックアップ ファイルの復元 \(P.13\)](#)
- [クラスタの復元 \(P.15\)](#)
- [バックアップおよび復元の履歴の表示 \(P.19\)](#)
- [トレース ファイル \(P.20\)](#)
- [コマンドライン インターフェイス \(P.20\)](#)
- [エラー メッセージ \(P.21\)](#)
- [関連マニュアル \(P.23\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.23\)](#)

障害復旧システムとは

障害復旧システム（DRS）は、Cisco Unified Presence の管理ページから起動することができ、Cisco Unified Presence クラスタ内のすべてのサーバに完全なデータ バックアップおよび復元機能を提供します。障害復旧システムを使用して、計画的な自動データ バックアップまたはユーザ起動のデータ バックアップを定期的に行うことができます。DRS は、1 件のバックアップ スケジュールだけをサポートします。

Cisco 障害復旧システム は、クラスタレベルのバックアップを実行します。つまり、Cisco Unified Presence クラスタ内のすべてのサーバのバックアップを一箇所に収集して、バックアップデータを物理記憶装置にアーカイブします。

システム データの復元を実行する場合、クラスタ内で復元するノードを選択できます。

障害復旧システムは、次の機能を備えています。

- バックアップおよび復元タスクを実行するユーザ インターフェイス
- バックアップおよび復元機能を実行する分散システム アーキテクチャ
- 定期バックアップ
- 物理テープ ドライブまたはリモート SFTP サーバへのアーカイブ バックアップ

障害復旧システムは、マスター エージェント（MA）およびローカル エージェント（LA）という 2 つの主要な機能を備えています。マスター エージェントは、バックアップおよび復元アクティビティを、すべてのローカル エージェントと関係させます。

システムは、クラスタ内のすべてのノードで、マスター エージェントとローカル エージェントを自動的に起動します。


バックアップおよび復元手順のクイック リファレンス表

次の表は、バックアップおよび復元手順のクイック リファレンスを示しています。

バックアップのクイック リファレンス

表 1 は、障害復旧システムを使用してバックアップ手順を行う際に必要となる主なステップを時系列に示した早見表です。

表 1 バックアップ手順実行の主なステップ

| 操作 | 参照先 |
|---|------------------------------|
| データのバックアップ先となるバックアップ デバイスを作成する。 | P.6 の「バックアップ デバイスの追加」 |
| バックアップ スケジュールを作成および編集してデータをスケジュールに基づいてバックアップする。 | P.8 の「バックアップ スケジュールの作成と編集」 |
|  (注) 手動バックアップと定期バックアップは両方ともクラスタ全体をバックアップします。 | |
| バックアップ スケジュールを有効または無効にしてデータをバックアップする。 | P.10 の「スケジュールの有効化、無効化、および削除」 |
| オプションで手動バックアップを実行する。 | P.11 の「手動バックアップの開始」 |
| バックアップのステータス確認：バックアップの実行中に、進行中のバックアップ ジョブのステータスを確認できます。 | P.12 の「バックアップ ステータスの確認」 |

復元のクイック リファレンス

表 2 は、障害復旧システムを使用して、復元手順を行う際に必要となる主なステップを時系列に示した早見表です。

表 2 復元手順を実行するための主なステップ

| 操作 | 参照先 |
|--|------------------------|
| 格納先の選択：バックアップ ファイルを復元する格納先を最初を選択する必要があります。 | P.13 の「バックアップ ファイルの復元」 |
| バックアップ ファイルの選択：使用可能なファイルリストから、復元するバックアップ ファイルを選択します。 | P.13 の「バックアップ ファイルの復元」 |
| 機能の選択：使用可能な機能のリストから、復元する機能を選択します。 | P.13 の「バックアップ ファイルの復元」 |
| ノードの選択：機能が複数のノードからバックアップされた場合、復元するノードを選択する必要があります。 | P.13 の「バックアップ ファイルの復元」 |
| 復元のステータス確認：復元プロセスの実行中に、進行中の復元ジョブのステータスを確認できます。 | P.18 の「復元ステータスの表示」 |

サポート対象の機能およびコンポーネント

次の機能をバックアップおよび復元できます。

- CUP
- データベース

クラスタ内のすべてのサーバで Cisco Unified Presence が実行されていることを確認します。

障害復旧システムのアクセス方法

障害復旧システムにアクセスするには、Cisco Unified Presence のメイン ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択します。[プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システムにログインします。



(注)

管理者ユーザ名とパスワードは Cisco Unified Presence のインストール中に設定します。コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、管理者パスワードの変更や、新しい管理者アカウントの設定ができます。詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。

マスター エージェントの役割と起動

システムは、クラスタ内のすべてのノードでマスター エージェントを自動的に起動しますが、完全にアクティブになるのはパブリッシャ サーバで実行中のマスター エージェントのみです。

マスター エージェントが実行する役割

マスター エージェント (MA) は次の役割を実行します。

- システム全体のコンポーネント登録情報を格納します。
- Cisco Unified Presence データベースに定期タスクの全セットを保持します。ユーザ インターフェイスからアップデートを受信すると、スケジュールに従い、実行可能なタスクを適切なローカル エージェントに送信します (ローカル エージェントは、速やかに即時バックアップタスクを実行します)。
- 障害復旧システム のユーザ インターフェイス経由でアクセスして、バックアップのスケジュールリング、特定のサーバまたは定義済みクラスタに対する新しいバックアップ タスクの追加、既存エントリのアップデートまたはレビュー、実行済みタスクのステータスの表示、システムの復元などを実行できます。
- ローカル接続のテープ ドライブ、またはリモート ネットワーク ロケーションに、バックアップのセットを格納します。

ローカル エージェント

マスター エージェントを収容するサーバを含む Cisco Unified Presence クラスタ内の各サーバは、そのサーバのバックアップおよび復元機能を実行するための独自のローカル エージェントを備える必要があります。



(注) デフォルトでは、ローカル エージェントはクラスタ内の各ノードで自動的に起動されます。

ローカル エージェントが実行する役割

ローカル エージェントは、クラスタ内の各ノードでバックアップおよび復元スクリプトを実行します。

バックアップ デバイスの追加

障害復旧システム を使用する前に、バックアップ ファイルを格納するロケーションを設定する必要があります。バックアップ デバイスは 10 個まで設定できます。バックアップ デバイスを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 障害復旧システム に移動するには、Cisco Unified Presence のメイン ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。



(注) Cisco Unified Presence の管理ページにログインしている場合は、[障害復旧システム] を選択する前にこのアプリケーションからログアウトしておく必要があります。

- ステップ 2** Cisco Unified オペレーティング システムで使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システム にログインします。

- ステップ 3** [Backup] > [Backup Device] に進みます。[Backup Device List] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** 新しいバックアップ デバイスを設定するには、[Add New] をクリックします。

[Backup Device] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** [Backup device name] フィールドにバックアップ デバイス名を入力します。

- ステップ 6** 次のバックアップ デバイスのいずれかを選択し、[Select Destination] 領域で適切なフィールド値を入力します。

- **Tape Device** : バックアップ ファイルをローカル接続のテープ ドライブに格納します。リストから適切なテープ デバイスを選択します。



(注) テープをスパンしたり、1 つのテープに複数のバックアップを格納したりすることはできません。

- **Network Directory** : SFTP 接続経由でアクセスされるネットワーク ドライブにバックアップ ファイルを格納します。次の必要事項を入力します。
 - **Server name** : ネットワーク サーバの名前または IP アドレス
 - **Path name** : バックアップ ファイルを格納するディレクトリのパス名
 - **User name** : リモート システム上のアカウントの有効なユーザ名
 - **Password** : リモート システム上のアカウントの有効なパスワード
 - **Number of backups to store on Network Directory** : 該当のネットワーク ディレクトリに格納するバックアップの数



(注) 格納先をネットワーク ドライブに設定するには、SFTP サーバにアクセスできるようにしてください。バックアップの前に SFTP パスが存在している必要があります。SFTP サーバへのアクセスに使用するアカウントには、選択したパスへの書き込み権限が必要です。

ステップ 7 これらの設定を更新するには、[Save] をクリックします。



(注) ネットワーク ディレクトリのバックアップでは、[Save] ボタンをクリックすると、DRS のマスター エージェントは選択した SFTP サーバを検証します。ユーザ名、パスワード、サーバ名、またはディレクトリ パスが無効な場合、保存は失敗します。

バックアップスケジュールの作成と編集

バックアップスケジュールは 10 件まで作成できます。各バックアップスケジュールには、自動バックアップのスケジュール、バックアップする機能セット、格納先など、独自のプロパティセットがあります。

バックアップスケジュールを管理するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システムにログインします。

ステップ 3 [Backup] > [Scheduler] に進みます。

[Schedule List] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 新しいスケジュールの追加または既存スケジュールの編集を行うには、次のいずれかの手順を実行します。

- a. 新しいスケジュールを作成するには、[Add New] をクリックします。
- b. 既存のスケジュールを設定するには、[Schedule List] カラムで該当の名前をクリックします。
[Scheduler] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [Schedule Name] フィールドにスケジュールの名前を入力します。



(注) デフォルトスケジュールの名前を変更することはできません。

ステップ 6 [Select Backup Device] 領域で、バックアップデバイスを選択します。

ステップ 7 [Select Features] 領域で、バックアップする機能を選択します。少なくとも 1 つの機能を選択する必要があります。

ステップ 8 [Start Backup at] 領域で、バックアップを開始する日時を選択します。

ステップ 9 [Frequency] 領域で、次の中からバックアップを行う頻度を選択します。[Once]、[Daily]、[Weekly]、[Monthly]。Weekly を選択した場合は、バックアップを実施する曜日も選択できます。



ヒント バックアップの頻度を Weekly に設定して火曜から土曜の間に行うようにするには、[Set Default] をクリックします。

ステップ 10 これらの設定を更新するには、[Save] をクリックします。

ステップ 11 スケジュールを有効にするには、[Enable Schedule] をクリックします。

次のバックアップは、設定した時間に自動的に実行されます。



(注) クラスタ内のすべてのサーバが同じバージョンの Cisco Unified Presence を実行しており、ネットワーク経由で到達可能であることを確認してください。定期バックアップの時刻に実行されていないサーバはバックアップされません。

ステップ 12 スケジュールを無効にするには、[Disable Schedule] をクリックします。

スケジュールの有効化、無効化、および削除

手順

ステップ 1 [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システム にログインします。

ステップ 3 [Backup] > [Scheduler] に進みます。

[Schedule List] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 変更するスケジュールの横にあるチェックボックス（複数も可）を選択します。

- すべてのスケジュールを選択するには、[Select All] をクリックします。
- すべてのチェックボックスをクリアするには、[Clear All] をクリックします。

ステップ 5 選択したスケジュールを有効にするには、[Enable Selected Schedule] をクリックします。

ステップ 6 選択したスケジュールを無効にするには、[Disable Selected Schedule] をクリックします。

ステップ 7 選択したスケジュールを削除するには、[Delete Selected] をクリックします。

手動バックアップの開始

手動バックアップを開始するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。
- [Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システム にログインします。
- ステップ 3** [Backup] > [Manual Backup] に進みます。[Manual Backup] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [Select Backup Device] 領域で、バックアップ デバイスを選択します。
- ステップ 5** [Select Features] 領域で、バックアップする機能を選択します。
- ステップ 6** 手動バックアップを開始するには、[Start Backup] をクリックします。
-

バックアップステータスの確認

進行中のバックアップジョブのステータスを確認およびキャンセルできます。バックアップの履歴を表示するには、P.19の「バックアップおよび復元の履歴の表示」を参照してください。

進行中のバックアップジョブのステータス確認

進行中のバックアップジョブのステータスを確認するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システムにログインします。

ステップ 3 [Backup] > [Current Status] に進みます。[Backup Status] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 バックアップログファイルを表示するには、ログファイル名のリンクをクリックします。

ステップ 5 進行中のバックアップをキャンセルするには、[Cancel Backup] をクリックします。



(注) バックアップは、現在のコンポーネントのバックアップ終了後にキャンセルされます。

バックアップ ファイルの復元

Restore Wizard の使用により、バックアップ ファイルの復元に必要な手順が示されます。復元を実行するには、次の手順に従ってください。



ヒント

クラスタ内のすべてのサーバを復元するには、[P.15 の「クラスタの復元」](#)を参照してください。



注意

Cisco Unified Presence を復元する前に、サーバにインストールされている Cisco Unified Presence のバージョンが復元するバックアップ ファイルのバージョンと一致していることを確認してください。

手順

ステップ 1 [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システム にログインします。

ステップ 3 [Restore] > [Restore Wizard] に進みます。Restore Wizard ステップ 1 ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [Select Backup Device] 領域で、復元に使用するバックアップ デバイスを選択します。

ステップ 5 復元するバックアップ ファイルを選択します。



(注) バックアップ ファイル名は、システムがバックアップ ファイルを作成した日時を示しています。

ステップ 6 [Next] をクリックします。Restore Wizard ステップ 3 ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 復元する機能を選択します。



(注) 選択したファイルにバックアップされた機能だけが表示されます。

ステップ 8 [Next] をクリックします。Restore Wizard ステップ 4 ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 データの復元を開始するには、[Restore] をクリックします。

復元するノードを選択するようにプロンプト表示されます。

ステップ 10 適切なノードを選択します。



注意

データの復元先のノードを選択すると、そのサーバ上の既存のデータは上書きされます。

ステップ 11 データは選択したノードに復元されます。復元のステータスを表示するには、[P.18](#) の「復元ステータスの表示」を参照してください。

ステップ 12 サーバを再起動します。再起動の詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド*』を参照してください。



(注)

データベースのサイズと選択したコンポーネントにより、復元に 1 時間以上かかる場合もあります。

クラスタの復元

大規模な障害やハードウェアのアップグレードが生じた場合は、クラスタ内のすべてのノードの復元が必要になる場合もあります。クラスタ全体を復元するには、最初にパブリッシャ サーバを復元してから後続のノードを復元する必要があります。

次の手順では、全クラスタを復元する手順を示します。

最初のノードの復元

クラスタ内の最初のノードまたはパブリッシャ サーバを復元するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 最初のノードまたはパブリッシャ サーバに Cisco Unified Presence を新規にインストールします。Cisco Unified Presence のインストールの詳細については、『Cisco Unified Presence インストレーションガイド』を参照してください。



注意

Cisco Unified Presence を復元する前に、サーバにインストールされている Cisco Unified Presence のバージョンが復元するバックアップ ファイルのバージョンと一致していることを確認してください。

- ステップ 2** [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システム にログインします。

- ステップ 4** [Restore] > [Restore Wizard] に進みます。Restore Wizard ステップ 1 ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** [Select Backup Device] 領域で、復元に使用するバックアップ デバイスを選択します。

- ステップ 6** [Next] をクリックします。Restore Wizard ステップ 2 ウィンドウが表示されます。

- ステップ 7** 復元するバックアップ ファイルを選択します。



(注) バックアップ ファイル名は、システムがバックアップ ファイルを作成した日時を示しています。

- ステップ 8** [Next] をクリックします。Restore Wizard ステップ 3 ウィンドウが表示されます。

- ステップ 9** 復元する機能を選択します。



(注) 選択したファイルにバックアップされた機能だけが表示されます。

ステップ 10 [Next] をクリックします。Restore Wizard ステップ 4 ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 データの復元を開始するには、[Restore] をクリックします。

ステップ 12 復元するノードを選択するようにプロンプトが表示されたら、最初のノード（パブリッシャ）だけを選択します。

ステップ 13 データは選択したパブリッシャ ノードに復元されます。復元のステータスを表示するには、P.18 の「復元ステータスの表示」を参照してください。



(注) 復元プロセスの実行中は、Cisco Unified Presence の管理ページまたは [ユーザ] ページでタスクを実行しないでください。

ステップ 14 サーバを再起動します。再起動の詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注) データベースのサイズと選択したコンポーネントにより、復元に 1 時間以上かかる場合もあります。

ステップ 15 最初のノードが再起動した後、P.16 の「後続のクラスター ノードの復元」を続行します。

後続のクラスター ノードの復元

クラスター内の後続のノードを復元するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 後続のノードに Cisco Unified Presence を新規にインストールします。Cisco Unified Presence のインストールの詳細については、『Cisco Unified Presence インストレーションガイド』を参照してください。



注意

Cisco Unified Presence を復元する前に、サーバにインストールされている Cisco Unified Presence のバージョンが復元するバックアップ ファイルのバージョンと一致していることを確認してください。

ステップ 2 [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システムにログインします。

ステップ 4 [Restore] > [Restore Wizard] に進みます。Restore Wizard ステップ 1 ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [Select Backup Device] 領域で、復元に使用するバックアップ デバイスを選択します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。Restore Wizard ステップ 2 ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 復元するバックアップ ファイルを選択します。

**注意**

クラスタ内の後続のノードを復元するには、最初のノードの復元に使用したバックアップ ファイルと同じファイルを選択する必要があります。

ステップ 8 [Next] をクリックします。Restore Wizard ステップ 3 ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 復元する機能を選択します。



(注) 選択したファイルにバックアップされた機能だけが表示されます。

ステップ 10 [Next] をクリックします。Restore Wizard ステップ 4 ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 データの復元を開始するには、[Restore] をクリックします。

ステップ 12 復元するノードを選択するようにプロンプトが表示されたら、後続のノードだけを選択します。

ステップ 13 データは後続のノードに復元されます。復元のステータスを表示するには、P.18 の「復元ステータスの表示」を参照してください。

ステップ 14 サーバを再起動します。再起動の詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注) データベースのサイズと選択したコンポーネントにより、復元に 1 時間以上かかる場合もあります。

復元ステータスの表示

進行中の復元ジョブのステータスを確認するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システム にログインします。

ステップ 3 [Restore] > [Status] に進みます。[Restore Status] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 復元ログ ファイルを表示するには、ログ ファイル名のリンクをクリックします。

バックアップおよび復元の履歴の表示

次の手順を使用して、最近 20 件のバックアップおよび復元のジョブを表示できます。

- [バックアップの履歴](#)
- [復元の履歴](#)

バックアップの履歴

バックアップの履歴を表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システム にログインします。

- ステップ 3** [Backup] > [History] に進みます。[Backup History] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** [Backup History] ウィンドウで、ファイル名、格納先、完了日、結果、およびバックアップされた機能など、バックアップの履歴を表示できます。



(注) [Backup History] ウィンドウには、最近 20 件のジョブだけが表示されます。

復元の履歴

復元の履歴を表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [障害復旧システム] に移動します。Cisco Unified Presence の管理ページにログインして、[Cisco Unified Presence の管理] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション] メニューで [障害復旧システム] を選択し、[移動] をクリックします。

[Disaster Recovery System Logon] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [プラットフォームの管理] で使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、障害復旧システム にログインします。

- ステップ 3** [Restore] > [History] に進みます。[Restore History] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [Restore History] ウィンドウから、ファイル名、格納先、完了日、結果、復元された機能など、復元操作の履歴を表示できます。



(注) [Restore History] ウィンドウには、最近 20 件のジョブだけが表示されます。

トレース ファイル

マスター エージェント、GUI、および各ローカル エージェントのトレース ファイルは、次のロケーションに書き込まれます。

- マスター エージェント : `platform/drf/trace/drfMA0*`
- 各ローカル エージェント : `platform/drf/trace/drfLA0*`
- GUI : `platform/drf/trace/drfConfLib0*`

トレース ファイルは、コマンドライン インターフェイスを使用して表示できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。

コマンドライン インターフェイス

障害復旧システムは、表 3 に示すように、バックアップおよび復元機能のサブセットへのコマンドライン アクセスも提供します。これらのコマンドとコマンドライン インターフェイス使用の詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。

表 3 障害復旧システム コマンドライン インターフェイス

| コマンド | 説明 |
|---|---|
| <code>utils disaster_recovery backup</code> | 障害復旧システム インターフェイスで設定されている機能を使用して、手動バックアップを開始します。 |
| <code>utils disaster_recovery configure_features</code> | バックアップする機能を設定します。 |
| <code>utils disaster_recovery restore</code> | 復元を開始し、復元するバックアップの場所、ファイル名、機能、およびノードのパラメータを要求します。 |
| <code>utils disaster_recovery status</code> | 進行中のバックアップまた復元ジョブのステータスを表示します。 |
| <code>utils disaster_recovery show_backupfiles</code> | 既存のバックアップ ファイルを表示します。 |
| <code>utils disaster_recovery cancel_backup</code> | 進行中のバックアップ ジョブをキャンセルします。 |
| <code>utils disaster_recovery show_registration</code> | 現在設定されている登録を表示します。 |
| <code>utils disaster_recovery show_tapeid</code> | テープの識別情報を表示します。 |

エラーメッセージ

障害復旧システム（DRS）は、バックアップまたは復元手順の実行中に発生するさまざまなエラーに対してアラームを発行します。表 4 に Cisco DRS のアラームの一覧を示します。

表 4 障害復旧システムのアラーム

| アラーム名 | 説明 | 詳細 |
|-----------------------------------|---|--|
| CiscoDRFBackupDeviceError | DRF backup process has problems accessing device | DRF バックアップ プロセスは、デバイスのアクセス中にエラーが発生しました。 |
| CiscoDRFBackupFailure | Cisco DRF Backup process failed | DRF バックアップ プロセスでエラーが発生しました。 |
| CiscoDRFBackupInProgress | Unable to start new backup while another backup is still running | DRF は、別のバックアップが実行中の間は新規にバックアップを開始できません。 |
| CiscoDRFInternalProcessFailure | DRF internal process has encountered an error. | DRF 内部プロセスでエラーが発生しました。 |
| CiscoDRFLA2MAFailure | DRF Local Agent is not able to connect to Master Agent | DRF ローカル エージェントはマスター エージェントに接続できません。 |
| CiscoDRFLocalAgentStartFailure | DRF Local Agent was not able to start | DRF ローカル エージェントはダウンしている可能性があります。 |
| CiscoDRFMA2LAFailure | DRF Master Agent is not able to connect to Local Agent | DRF マスター エージェントはローカル エージェントに接続できません。 |
| CiscoDRFMABackupComponentFailure | DRF was unable to backup at least one component. | DRF はコンポーネントにデータをバックアップするよう要求しましたが、バックアップ プロセス中にエラーが発生しコンポーネントはバックアップされませんでした。 |
| CiscoDRFMABackupNodeDisconnect | The node being backed up disconnected from the Master Agent prior to being fully backed up. | DRF マスター エージェントは Cisco Unified Presence ノードでバックアップ操作を実行中でしたが、ノードはバックアップ操作が完了する前に切断されました。 |
| CiscoDRFMARestoreComponentFailure | DRF was unable to restore at least one component. | DRF はコンポーネントにデータを復元するよう要求しましたが、復元プロセス中にエラーが発生しコンポーネントは復元されませんでした。 |
| CiscoDRFMARestoreNodeDisconnect | The node being restored disconnected from the Master Agent prior to being fully restored. | DRF マスター エージェントは Cisco Unified Presence ノードで復元操作を実行中でしたが、ノードは復元操作が完了する前に切断されました。 |
| CiscoDRFMasterAgentStartFailure | DRF Master Agent was not able to start | DRF マスター エージェントはダウンしている可能性があります。 |
| CiscoDRFNoRegisteredComponent | No registered components available, backup failed | 使用可能な登録済みコンポーネントがないため DRF バックアップは失敗しました。 |
| CiscoDRFNoRegisteredComponent | No feature selected for backup | バックアップの機能が選択されていません。 |

表 4 障害復旧システムのアラーム (続き)

| アラーム名 | 説明 | 詳細 |
|----------------------------|---|---------------------------|
| CiscoDRFRestoreDeviceError | DRF restore process has problems accessing device | DRF 復元プロセスがデバイスから読み取れません。 |
| CiscoDRFRestoreFailure | DRF restore process failed | DRF 復元プロセスでエラーが発生しました。 |
| CiscoDRFSftpFailure | DRF sftp operation has errors | DRF SFTP 操作でエラーが発生しました。 |

関連マニュアル

関連のある Cisco IP テレフォニー アプリケーションおよび製品については、次のマニュアルを参照してください。

- *Cisco Unified Presence インストールガイド*
- *Cisco Unified Presence アドミネストレーションガイド*
- *Cisco Unified Serviceability アドミネストレーションガイド for Cisco Unified Presence*
- *Cisco Unified Communications Operating System アドミネストレーションガイド for Cisco Unified Presence*

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここには、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>。何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メールを送信してください。

CCVP, the Cisco Logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, *Packet*, PIX, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0612R)

Copyright © 2007, Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。

シスコシステムズでは以下のURLで最新の日本語マニュアルを公開しております。
本書とあわせてご利用ください。

Cisco.com 日本語サイト

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/

日本語マニュアルの購入を希望される方は、以下のURLからお申し込みいただけます。

シスコシステムズマニュアルセンター

<http://www2.hipri.com/cisco/>

上記の両サイトで、日本語マニュアルの記述内容に関するご意見もお受けいたしますので、
どうぞご利用ください。

なお、技術内容に関するご質問は、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先 (シスコ コンタクトセンター)

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter>

0120-933-122 (通話料無料)、03-6670-2992 (携帯電話、PHS)

電話受付時間 : 平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

OL-12725-01-J